

様式（従来版）

自己点検・自己評価報告書

（専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版）

令和4年2月15日現在

日中学院

令和4年2月15日作成

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価	1	基準5 学生支援.....	21
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	2	5-16 就職等進路.....	22
1-1 理念・目的・育成人材像.....	3	5-17 中途退学への対応.....	23
基準2 学校運営.....	4	5-18 学生相談.....	24
2-2 運営方針.....	5	5-19 学生生活.....	25
2-3 事業計画.....	6	5-20 保護者との連携.....	26
2-4 運営組織.....	7	5-21 卒業生・社会人.....	27
2-5 人事・給与制度.....	8	基準6 教育環境.....	28
2-6 意思決定システム.....	9	6-22 施設・設備等.....	29
2-7 情報システム.....	10	6-23 学外実習、インターンシップ等.....	30
基準3 教育活動.....	11	6-24 防災・安全管理.....	31
3-8 目標の設定.....	12	基準7 学生の募集と受入れ.....	32
3-9 教育方法・評価等.....	13	7-25 学生募集活動.....	33
3-10 成績評価・単位認定等.....	14	7-26 入学選考.....	34
3-11 資格・免許の取得の指導體制.....	15	7-27 学納金.....	35
3-12 教員・教員組織.....	16	基準8 財務.....	36
基準4 学修成果.....	17	8-28 財務基盤.....	37
4-13 就職率.....	18	8-29 予算・収支計画.....	38
4-14 資格・免許の取得率.....	19	8-30 監査.....	39
4-15 卒業生の社会的評価.....	20	8-31 財務情報の公開.....	40

基準 9 法令等の遵守	41
9-32 関係法令、設置基準等の遵守	42
9-33 個人情報保護.....	43
9-34 学校評価.....	44
9-35 教育情報の公開	45
基準 10 社会貢献・地域貢献	46
10-36 社会貢献・地域貢献	47
10-37 ボランティア活動.....	48

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和2年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>本校の前身、倉石中国語講習会は1951年、科学的中国語教育の実施と日中友好への貢献を目指して設立された。「中国語を学んで日中友好の架け橋となろう」という当時のスローガンは今も建学の原点を示すものとして各教室に掲げられている。</p> <p>現在は中国語本科、附帯教育である中国語別科で中国語教育を行っているほか、日本語科を設置して、留学生に対する日本語教育を行っている。このような理念のもとで、語学を習得するとともに、相手の国に対する深い理解をもち、国際交流に積極的に参加していけるような人材の養成を目指している。</p>	<p>さまざまな社会的変化、特に日中関係の変化の中で現在の中国語教育、日本語教育に求められているものを探求し、こうした社会的要請に応えられる教育機関にしていくことが基本方針である。以上の方針のもとに今年度は以下の項目を重点目標とした。</p> <p>(1)中国語本科：学生募集活動の強化</p> <p>18歳人口が減少の一途を辿る中、入学者はこの数年減少している。本科・本科研究科の入学者を確保することは専門課程存続のため急務となる。</p> <p>今年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、マスク着用、登校時の手指消毒、検温、座席指定、換気、教室消毒等感染対策を施し授業を進める。場合によってはオンライン授業に切り替える。</p> <p>(2)日本語科：中国の学生募集活動の強化</p> <p>中国で日中学院の名前、日本人学生との日常的な交流の中で学ぶ独特の教育方針などは十分に知られているとは言えない。北京代理事務所は閉鎖となり、その他の仲介や仲介業者以外の募集ルートも開拓する。</p> <p>感染が続いているため入国が遅れた学生への対応を考慮する。</p>	<p>建学以来、一貫して日中友好に寄与するという大きな教育理念を基に、中国語、日本語教育を行ってきた。その中で、その時々での社会的変化、日中関係の変化に対応できるよう模索してきた。</p> <p>今年度は特に以下の対策を実施した。</p> <p>(1)中国語本科：例年通りの高校、大学、短大、中国語学会へのDMによる宣伝の他、高校訪問を実施した。</p> <p>コロナ禍での授業は大きな問題はなかったが、感染者が出た場合は、オンライン授業に切り替え、PCR検査を実施する等対応を決めた。中国短期研修や合宿は実施できなかった。</p> <p>(2)日本語科：北京代理事務所以外の仲介業者とも提携し、学生を募集した。入国の遅れた学生には補習を行った。また来年度から、3年目の学生向けに進学科を新設した。</p>	<p>(1)中国語本科：学生募集においては、効果的な活動がないか模索する。また、本科学生確保のため、中国語の教育水準、学生の到達目標を更に高め、他ではできない中国語教育を提供するよう努める。</p> <p>(2)日本語科：安定した学生数を確保するため、他の仲介業者の開拓や個人の応募や卒業生からの紹介も増えるよう働きかけを行う。</p>

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学院は、専修学校の専門課程である中国語本科、日本語科の 2 つの学科と、社会人教育の別科昼間部、別科夜間部の 2 つの学科に分かれている。それぞれの科によって学生の学習目的が異なっている。</p> <p>大きな教育理念は一つだが、各科ごとに別々に個別の教育目標が定められている。</p> <p>ここでは、専門課程である中国語本科と外国人留学生のための日本語科の 2 つの科について点検する。</p> <p>専門課程である本科は、就職目的のための語学習得を目的とする比較的若い人が多い。また、より高度の語学学習を目指し、留学準備のために学習する学生もいる。将来中国語を使って仕事をする国際人としての人材を育成する。</p> <p>日本語科は、大学と大学院進学のための日本語学習、日本と日本文化を理解し、日本人との交流が出来なければ日本での長期にわたる滞在は不可能なので、語学だけでなく、日本を理解するための教育も必要である。中国語本科と同じく国際人としての人材を育成する。来年度から 3 年目の学生向けに進学科を新設した。</p> <p>このような教育理念は、語学を通じて直接相手の歴史、文化、考え方を理解することによって成立する。学院の教育理念は、その考え方は、講師だけでなく、学生たちにもよく浸透している。</p>	<p>中国語の専門学校である日中学院は、語学の習得だけでなく、語学を使った国際交流が出来る人材の育成を目指している。</p> <p>日中学院のスローガンである「中国語を学んで日中友好の架け橋になろう」は学院創立以来のものであり、本校で学んでいる学生にはよく知られている。</p> <p>語学の学習だけでなく、日中の交流が大切であるという学院の姿勢は学生たちによく理解されている。</p> <p>日本語を学習する中国人留学生を受け入れ始めてから 30 年以上たち日本語科も定着している。</p> <p>日本人の中国語学習者と中国人留学生の交流の輪も広がりつつある。語学だけでなく、他国の文化等を理解し民間交流を推し進めるのは、本学院の教育方針の基礎である。</p>

最終更新日付

令和 4 年 2 月 15 日

記載責任者

小松 健次

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	理念・目的・育成人材像などは、明確に定められている。	各教室に学校のスローガンが貼ってある。 ホームページ・案内書にも明記してある。	機会あるごとに積極的に学生に説明する必要がある。	学校のスローガン ホームページ 学校の案内書
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	育成人材像が専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合するよう、各科ごとに教育目標を持ち、実現に向け努力する。	各科ごとに教材・カリキュラム等を研究し、編成している。	業界や時代のニーズに適合するよう絶えず教材・カリキュラム等の修正が必要である。	ホームページ 学校の案内書
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	理念等の達成のため、各科ごとに特色ある教育活動を行うよう努力する。	各科ごとに学生の学習目的が異なるため、教材・カリキュラムを変え取り組んでいる。	各科ごとに教師同士の密な会議、連携が必要である。	ホームページ 学校の案内書
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	将来に向け、長期的な構想を考える。	教職員会議等で討議している。	継続討議の必要がある。	ホームページ 学校の案内書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の理念「中国語を学んで日中友好の架け橋になろう」は、かなり具体的ではっきりとした特色のあるものだと思う。各教室に掲げられているこの言葉は、教職員はもとより、学生の間でも良く知られている。	本校の教育理念は、学院の創立以来のスローガンであり、日本と中国の友好平和のために語学を学習するという姿勢は、本校の基本的な教育理念になっている。

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>従来の運営会議から学院長、各科代表で構成する少人数運営会議、それを受けて月 1 回専任専従会議に変更して 4 年目になる。運営委員は来年度改選する。運営会議の前に分掌別の会議があり議題を精選する。会議の数が多いが、一人の権限で各種の諸規定の制定や、事業計画等が決まることはないのがいい点である。</p> <p>賃金は、賃金体系表に基づいている。賃金体系表は公開され、その実施は公平に行われている。</p>	<p>学校運営に関しては、細かい事柄まで学院長をはじめ、専任講師・専従職員全員で検討し、結論を出すことを特色としている。全員で出した結論なので、一人ひとりが責任を持って実行していこうという気持ちが湧く。</p> <p>意思決定の権限は学院長にあるが、各分掌で検討されたものに基づいて決定をする。権限を持つ一人、または、少数のものが決定することはない。</p> <p>結論を出すまでかなりの時間を要することが問題であったため、少人数による運営会議を発足させた。</p>

最終更新日付	令和 4 年 2 月 15 日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	学校の教育理念達成のため、明確な運営方針が定められる必要がある。	学校の運営方針は明確に定められていると思う。	社会的な変化に合わせて運営方針の確認、見直しが必要である。	日中学院運営規則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学院の教育目標、学校運営の方針はかなり明確に定められている。定期的な会議を通して、教職員にも伝わっているし、全体講師会を通して全講師に伝えられている。	社会情勢とくに日中関係の状況によって、学生数に大きな変動が出る傾向がある。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	学校の教育理念達成のため、毎年事業計画が定められる必要がある。	毎年運営会議において事業計画が立てられている。	長期的な展望にたった事業計画が必要である。	年間の事業計画表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画は毎年策定している。	日中学院は、公益財団法人日中友好会館の一部であり、新しいことを始める時には定款に沿った運営が求められる。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	設置法人は組織運営を適切に行う。	設置法人は組織運営を適切に行っている。	設置法人と教育現場との緊密な意思疎通が課題である。	運営組織図
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	運営組織は学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっている必要がある。	運営会議において決定が行われている。運営規則、個人情報保護規定などを定めている。少人数運営会議を発足させた。	少人数運営会議を有効的に機能させる。	日中学院運営規則 運営組織図

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営組織はかなり明確に決められている。各種会議の数も多く、教職員数が少ないため負担が大きくなっている面もある。運営委員は来年度改選する。	専任教職員全員で討議検討して決定していくシステムは、本学院独自のものである。

最終更新日付

令和4年2月15日

記載責任者

小松 健次

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	人事・給与に関する制度をしっかりと確立する。	人事・給与に関する制度を整備している。給与規定、退職金規定を定めている。	運営会議での定期的な制度の点検が必要である。	日中学院専任教職員就業規則 日中学院専任教職員給与規程 日中学院専任教職員退職金規定 日中学院非常勤講師就業規則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事は必要な人材を必要な時に補充するための人事委員会の制度があり、有効に機能している。給与は就業規則、給与規程に基づき適正に支給されている。非常勤講師には給与回数制を運用している。 育児・介護休業等規則と非常勤講師の就業規則改定作業を行った。	人事、給与については運営会議での討議、承認を行っている。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	学校運営をスムーズに行うため、意思決定システムが整備されなければならない。	意思決定システムは運営会議を中心として確立されている。運営会議を少人数化した。	運営会議以外にも会議が多く決定までに時間がかかることがある。	運営組織図 運営規則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
委員会の数が多いが、各委員会の役割がはっきりしていて、それぞれが機能している。各分掌委員会から運営委員会へと会議システムがしっかりしている。少人数運営会議に変更し、意思決定の迅速化を図っている。	各分掌会議で会議内容を検討し、月1回の運営会議や専任専従会議で議題について検討する体制をとっている。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	業務の効率化を図るため、情報システム化をより整備することが今後の目標。	2008年度から、専任教職員全員に個人用パソコンを導入し、情報の電子化と共有化を進めている。受付業務にシステムを導入している	情報のネットワーク化が課題。個人情報保護を厳重に行なう。 受付システムの迅速化を図る	なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
2008年度から全員に個人用パソコンが導入されたが、各個人が持っている資料の交換や活用については今後の課題となる。 受付システムは情報量が多くなり、起動に時間がかかるため、迅速化を図る必要がある。来年度コンビニ支払システムを導入する予定。	受付業務にシステムを導入している。業務が徐々にシステム化されている。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育目標は、中国語本科は中国語を習得し、日本語科は日本語を習得して、これを使って国際貢献が出来る人材を養成することである。これを旨としてカリキュラム、シラバスを検討し、作成している。</p> <p>講師の授業評価は行っていないが、学生アンケートなどを通して授業の満足度、達成度は計っている。資格については、高い目標を設け、達成するように講師・学生共に励んでいる。</p> <p>教授法については、個人差があるものの、ある程度共通した教授法が必要なため、講師会において教授法の共通化を図っている。それを通じて質の高い講師の養成が出来ると思う。成績評価、単位認定は学科ごとに成績会議が開かれ、基準に沿った認定を行っている。</p> <p>生涯教育は、これからの教育を考える上で大切な項目なので、重要な研究課題である。</p>	<p>本学院は、中国語の専門学校として、大学では習得できない通訳翻訳技術に力を入れている。本校在学の留学生は全員中国人ということもあり日本人と中国人の交流を通しての日本語と中国語の効果的な学習の成果は上がっている。</p> <p>講師陣の約半数は中国人であるので、学生はもちろん、日本人講師の語学力アップにプラスになっている。</p> <p>附帯教育としての別科には社会人学習者が多いことが特色。</p>

最終更新日付	令和 4 年 2 月 15 日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------------	-------	-------

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	学科毎に理念に沿った教育課程の方針を定める必要がある。	学科毎に教材・カリキュラム編成を行っている。	常に変化する業界のニーズを正確に把握し、カリキュラムの再編を行っていくこと。	ホームページ 案内書
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にする必要がある。	中国語本科、日本語科では教育到達レベルは明確に設定されている。	社会教育の別科では、まだ客観的な到達レベルを判断するシステムがない。	ホームページ 案内書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラム作成、教材選定、レベル設定等は専任講師が行い、講師会等で非常勤講師の意見も取り入れ良く話し合い毎年確認している。 別科では、今年度、引き続き基礎課程の教材改定作業を行った。	1科目を1人で教えるのではなく、数名で組んで教授している。進度についても教授方法についても協調しながらやっている。中国語のカリキュラム表は、中国語で表記してあるものがある。

最終更新日付

令和4年2月15日

記載責任者

小松 健次

3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	教育目的・目標に沿ったカリキュラムを編成しなければならない。	教育目的・目標に沿ったカリキュラムを編成している。	学生の到達レベルの判定に基づき、カリキュラムの修正が必要。	ホームページ 案内書
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	社会のニーズに対応できるよう外部の意見を聞くことも必要。	現在外部の意見を反映する制度はないが、今後外部評価を行うか検討する。	今後外部評価の制度を設けるか検討する。	
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	現在実施していないが、今後検討する必要がある。	キャリア教育は、カリキュラムの中に組み込まれてはいない。	今後、カリキュラムの中に組み込むように検討しなければならない。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	学生の意見・要望を知り、対応するためにも授業アンケートは必要である。	本科、日本語科、別科とも毎年1回授業アンケートを実施している。	アンケートの評価項目は毎年改善する必要がある。	各学科のアンケート表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業計画、授業の進め方は主に専任講師が立て、毎日進度を確認している。アンケート結果については、各講師が結果を見てそれを授業に生かすよう努力している。	授業評価については、アンケートを通じて学生の授業に関する意見を吸い上げ、それを授業に生かしている。

最終更新日付

令和4年2月15日

記載責任者

小松 健次

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価・単位認定基準を明確化し、適切に運用し、かつこれを学生に周知する。	成績評価・単位認定の基準は明確で、毎年成績会議などを通じて適切に運用されている。	特殊事情がある場合は、成績会議で個別に検討する。	本科・日本語科の諸規則
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	学習の成果を発表する機会が必要である。	弁論大会や朗読大会、文化祭を開催し、学習の成果を発表する場を設けている。	学習成果発表の機会を増やす必要がある	弁論大会の小冊子

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価、修了認定は学科ごとに定まった基準があり、認定にあたっては成績会議の討議を経て行っている。	幼いころ外国で育ったり、本学院に入学する前に海外留学した経歴を持つ学生なども多い。他校で学んだ実績や、海外で受けた教育を入学時に単位認定するケースがある。適切に判断されていて、良い結果を生むものが多い。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	学生の学習意欲向上のためにも、目標とする資格・免許をカリキュラム上、明確にする。	目標とする資格は明確に定められている。	資格の合格者を増やすことが課題。	本科入学案内
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっている。	授業の中で、検定試験対策、模擬テストなどを行っている。また少人数なので、個々の学生への個人指導を行っている。	資格の合格者を増やすことが課題。	本科入学案内

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中国語検定、HSK や通訳案内士試験合格を目指している。合格率は高いが、より上を目指したい。専門学校として資格取得は最も大切なことなので、学生・講師共に目標に向かって努力している。	語学の専門学校なので、取得できる資格がはっきりしている。また、取得できる資格の種類が語学関係に限られている。中国語の資格取得については、全科目が関連のある学習になり、全講師が協力できる点が強みである。

最終更新日付

令和4年2月15日

記載責任者

小松 健次

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	質の高い授業を提供するために、経験豊富な教員を揃えることは不可欠。	専門性・教授力・経験のある教員を確保している。	世代交代に備えて、若手教員の採用、養成が必要である。	なし
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教授方法を共通のものにし、教員の質の向上のため、教員研修が必要である。	教員の研修は、不定期にだが実施している。 教員が学外での研修に出る場合は支援している。	研修会の回数を増やしていくこと。	研修会の資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	教員同士の連携を図るため組織体制を整える。	専任講師を中心に、各科ごとに講師会があり、お互い意見交換をしている。	非常勤講師が一堂に会する機会が少ない。	なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中国語本科・日本語科共に、経験の豊富な講師を採用、長期にわたって教授してもらうために、雇用条件を他校より良くしていると自認している。長期にわたって勤務している講師が多いため学校の方針・理念は浸透している。	全体の講師会の他に、教科ごとの講師会を年間数回開き、カリキュラム、教授法等に対する検討をしている。

最終更新日付

令和4年2月15日

記載責任者

小松 健次

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>資格目標は、中国語の検定試験合格、HSK(漢語水平考試、中国主催の語学力試験)合格、通訳案内士試験合格である。</p> <p>目標は学生によって目指す級が違うが、各人の実力に応じ全員が受験し、何級かの試験に合格することを目標にしている。今後今以上に力を入れる必要がある。</p> <p>卒業後は4年制大学の中国語科に編入する学生がいる。推薦入試の他、受験合格の例も多い。進学指導の面では一定の成果が上がっている。就職の面では、求人票数が少ない問題がある。</p> <p>創立70年余年になるので卒業生の数は多く、日本と中国の各分野で活躍している。</p>	<p>卒業後も中国語を生かした活動を希望する学生が多い。継続して学習する学生には、大学への進学を目指す者も多い。また就職を希望する学生には、語学を生かして、日中関係の仕事に就職する卒業生が多い。特に近年は小売業や接客業で中国語を使う仕事が増えている。</p> <p>しかし日中の国際的な政治状況や経済状況に就職率が左右されるという特殊事情がある。</p>

最終更新日付

令和4年2月15日

記載責任者

小松 健次

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	就職率の向上は、専門学校として重要な課題である。求人票数を増やすよう努力する。	就職セミナー、個人面談を通じ学生に早めの就職活動を促し、新しい求人先の開拓を行っているが、充分でない。	昨中国語を必要とする求人は増えているが、卒業生の就職情報ネットワークをつくり求人を増やすよう努力する。	就職セミナー資料 求人票

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生が希望するところに就職するのは難しい。求人票を数多く集めるように努力し、学生の選択肢を増やしたい。また、学んだ語学を生かせるような就職先の開拓に励みたい。</p> <p>今年度は、コロナ渦のため求人自体が少なく、就職活動は困難だった。</p>	<p>専門と関係のある、語学関係の就職先を希望する学生が多い。また、就職せずに、本科研究科に進学、中国に留学、大学に編入する学生も多い。</p>

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	資格の取得率向上は教学の成果を具体的に示すものでもあり、積極的に取り組む。	カリキュラムの中に試験対策を取り入れており、資格の取得率向上は図られている。	取得率の更なる向上が課題。	受験者と合格者数のリスト 中国語検定、HSK 試験結果

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得者は増えているが、全員ではない。全員取得を目指したい。	取得できる資格がほとんど語学の検定に限られる。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	就職ネットワークを作るためにも卒業生の活躍や評価を把握することは大切である。	中国関係の業界で活躍し、評価を得ている卒業生は多い。	卒業生の動向を把握し、就職ネットワークを作れるようにする。	新聞雑誌などの記事

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中国語関係者の中で、日中学院の卒業生は多いが、国内外で活躍している卒業生の力、情報を生かしきれてはいない。	仕事関係だけでなく、教育関係やボランティアとして活動している卒業生も多い。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>中国語本科においては、2年生の年度当初から就職セミナー、個人面談、進路懇談会などの支援活動を行っている。また、大学進学や、大学編入希望者も増えてきたため、それらに対する支援活動も行っている。退学する学生については、各人それぞれ事情が違うので、個別相談に力を入れている。学院側に問題があれば、会議で報告して全員で対処法を考えるやり方をとっている。教育相談は年間何回か行っているが、常時学生が利用できる相談室がないのは問題。</p> <p>日本語科においては、毎年全員が進学希望なので、個別指導だけではなく、授業時間を使っての進学指導も行っている。日本と中国は進学の制度自体が違うので、日本の受験事情や入試・面接のやり方を教える必要がある。</p> <p>本科の経済的支援は、日本学生支援機構奨学金、東京都の育英資金奨学金、学院独自の奨学金制度である倉石奨学金の3つである。また、成績優秀、皆勤の学生の中から、特に活躍した学生には倉石賞という学習奨励金を支給している。</p> <p>日本語科には、進級・進学の際に支給される奨学金がある。条件を満たせば全員が奨学金を受給できる。</p> <p>健康診断は、本科日本語科共に年1回実施されている。</p> <p>学生寮は、学院では保持していないが、学校に通いやすい学生寮を紹介している。</p> <p>校庭がないのでクラブ活動はない。その代わり年に一度、合宿の中でスポーツ交流がある。文化祭等の交流活動も盛んに行われている。</p>	<p>学校全体のクラス数、学生数、および、一クラスの学生数が少ないので、講師が学生一人一人の名前を覚えられ、個別指導が出来る。</p> <p>留学生の場合、努力すれば全員が奨学金を得られる制度がある。</p>

最終更新日付

令和4年2月15日

記載責任者

小松 健次

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	専門学校として、就職等進路を支援する体制を整えるのは極めて重要である。	担任が進路個人面談を実施している。また、就職セミナー、進路懇談会を開催している。	学生に必要な支援は多様化しているため、さらに改善の必要がある。	年間計画表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本科、日本語科と事務局に就職・進学を担当者を置き、就職進学に対する体制は、きちんと整備されている。講師と事務局担当者との連携もしっかりと行われている。</p> <p>今年度、コロナ渦のため求人自体が少なく、就職活動は困難だった。</p>	<p>本科・日本語科共に、少数のクラスなので、個別指導がきめ細やかに行える。</p>

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	入学者全員を卒業させられるよう、授業、生活面等できめ細かな指導を行う。	クラス担任が個別に学生の相談に応じ、充実した学生生活が送れるよう努めている。	退学の理由は様々なので、クラス担任と事務局、他の講師との連携が必要である。	なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学率を低減させるため、クラス担任が授業のフォロー、生活面の相談に応じ、きめ細かい指導を行っている。今後、さらに退学者を減らすよう努める。	少数のクラスなので、個別指導がきめ細やかに行える。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	学生相談に関する体制を強化する。	教室数の関係で就職相談室はないが、クラス担任が必要に応じて相談に応じている。	精神的な問題の場合、専門的なカウンセラーの協力が必要な場合がある。	なし
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	留学生に対しても同上。	クラス担任が必要に応じて相談に応じている。	学生数が増えた場合に備えて体制をつくる必要がある。	なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
相談室はないが、個人面談が設定されクラス担任が行っている。また、それぞれの科の担任講師や事務局職員が適宜相談に応じている。	本科日本語科共に、少人数のクラスなので、個別指導がきめ細やかに行える。本科では幅広い年齢層の学生に対応している。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	経済的状况により、就学が困難な学生に対して支援体制を整備する必要がある。	公的奨学金の他に、学院独自の奨学金制度がある。 また本科学費減免制度を設けている。	学院独自の奨学金制度は将来拡大していきたい。 学費減免制度については、減免額を考慮する必要がある。	学校の案内書
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学生が健やかに学校生活を送れるよう体制を整える。	本科、日本語科では毎年1回健康診断を実施している。	特に問題は感じていない。	学校の案内書
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	中国語本科は地方からの学生が少なく、学生寮は設置していない。	日本語科の留学生など必要な学生には、アパートや学生寮の紹介をしている。	紹介できる学生寮の情報を増やす必要がある。	なし
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	特に課外活動は行っていない。	特に課外活動は行っていない。	学生の希望を聞いていく必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
奨学金については、学生に周知しており、毎年応募者がある。留学生に関しては、一定の条件を満たせばもらえる奨学金制度がある。 本科では、条件にあたる世帯の学生には、学費減免制度を設けている。 学生寮はないが、民間の学生寮を紹介している。	本学独自の奨学金制度がある。本科は倉石賞、日本語科は藤堂奨学金。どちらも返還の必要はない。支給人数、支給額の拡大が今後の課題となる。 日本人の学生は、首都圏の学生が多く、遠隔地の出身者は少ない。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	学生が無事に卒業できるよう、保護者と連絡を密にする。	保護者とは連携している。出席成績の芳しくない学生の家族には連絡をとるようにしている。	担任講師に負担が集中している。改善が必要である。	なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
必要な場合は、担任が両親と連携して問題に対処している。留学生の場合は、保護者とは電話連絡になってしまうので、在日の親族がいる場合、その親族と連絡をとり、面接をするようにしている。	留学生については、国内の連絡人・親類と連絡を取っている。必要があれば、本国の両親と連絡を取る。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	卒業生への支援体制は必要なので、今後検討する。	元の担任教師が個別に相談に乗っている。また、必要であれば求人情報も伝えている。	卒業生フォロー体制はないので、今後検討する。	なし
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	特に当てはまらない。	なし		
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	既卒者や社会人経験者の入学が増えており、社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備する。	附帯教育の別科では、早朝、午前、午後、夜間と70以上の講座を設け、多くの社会人が学んでいる。	社会人のニーズは多様なので、個別に把握し対応していく必要がある。	学校の案内書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業時の担任講師が卒業生の再就職、留学などの相談に乗っている。	卒業生で組織する校友会の活動が盛ん。同窓会や留学生との1日遠足、講演会を実施している。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>各教室の教育設備は比較的整備されている。LL 教室がある他、各教室には、テレビ、テープレコーダーが設置してあり、教室によっては、CD、DVD、大型テレビが設置してある。その他持ち運びできるノートパソコンを用意し、教室内でも使用出来るようにしているが、台数は足りない。この他、ラウンジでの wifi 環境を整備している。またオンライン授業用に、ポケット wifi を購入したが、インターネット環境は十分とは言えない。ネット環境を整備する予定。</p> <p>不特定多数が使用するので、気をつけてはいるが、教育機器のメンテナンスが遅れてしまう事があり、その点が問題である。</p> <p>本科の 2 年生が北京で行う海外語学研修は実績を上げている。インターンシップ制度はあるが、受け入れ先が少なく、研修を受ける機会は多くないので増やす必要がある。</p> <p>防災関係には問題がない。</p>	<p>1 クラス 10 名から 15 名程度の少人数クラスで、きめ細かい指導をしている。</p> <p>日本人学生と中国人学生が同じ校舎で学んでおり、お互い学び合える環境にある。</p>

最終更新日付	令和 4 年 2 月 15 日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	設備・教育用具をより一層整備する。	各教室にテレビ、DVD ビデオデッキがある。CD プレイヤーも備えている。 LL 教室も完備している。	各教室に DVD 機器、パソコンなどもほしいが予算が足りない。 LL 教室のメンテナンスも課題	教育機器の管理表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各教室にテレビ、DVD ビデオデッキがある。別に CD プレイヤー、DVD プレイヤーも備えている。 パソコン、インターネット環境の更なる整備が今後の課題となる。	ラウンジと大教室に 52 型の大型テレビが設置してある。ラウンジでは、1 日中中国の衛星放送を流している。

最終更新日付	令和 4 年 2 月 15 日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	海外研修は毎年実施している。学外実習、インターンシップは提携先がないため、今後検討する。	本科2年生は5週間の中国短期研修実施。中国人民大学と提携している。学外実習は、依頼があれば、通訳、アテンド等を行っている。	中国語を使っての学外実習、インターンシップは恒常的に提携する適切な機関が見つかっていない。	学校の案内書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
夏季5週間に及ぶ中国での短期研修は、本科2年次の必修科目であり、長年の実績もあり効果を挙げている。（今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため未実施）	中国語本科2年生は中国北京で5週間語学研修ができる。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	組織体制を整備し、災害時に備える。	防災担当者があり、防災に対する体制は整備されている。	定期的な防災体制の点検が必要である。	任務分担表 避難マニュアル
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	避難マニュアルを浸透させ、災害時に迅速に対応できるよう準備する。	本科、日本語科は年1回、避難訓練を実施している。また、防災用品を備えている。	学生、教職員に避難マニュアルを浸透させる。	防災用品管理リスト

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
避難訓練は、年に1回、学生・講師・事務局員・警備担当会社と共同で行っている。また、防災用品を一階倉庫に保管し、定期的に点検している。	避難訓練は、講師・事務局員と日中友好会館の警備担当会社とが共同で行っている。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>ホームページ、インターネット、新聞・雑誌広告媒体、ダイレクトメールを使って学生募集を行っている。募集要項は毎年刷新し、ホームページは適時更新し運用している。また、SNS を利用した情報の発信を行っている。その他、年に数回中国語に興味を持つ人を対象に校内で無料公開講座を実施している。卒業生や教員による学生紹介も多い。学生の募集にあたっては、資格などについての情報を公開している。教育活動が学生募集に結びついてるとはまだ言えないようだ。</p> <p>学生納付金は適切なものだと思う。</p>	<p>中国語本科向けに東京都内を中心に、都内の高校へ出向き学生募集活動を行っている。ニュースやメディアにより高校生は中国に対してマイナスのイメージを持っており、募集に繋がるかは不明である。この他、大学や短大のキャリアセンターへの宣伝活動も行うようにする。</p> <p>日本語科に入学を希望する学生に対しては、担当者が中国に赴き、中国現地で面接と筆記試験を実施している。(今年度はオンラインによる説明会と面接を実施)引き続き 10 月生を受け入れた。募集には仲介業者を通し、仲介手数料が高額になるため、今後先方と協議する必要がある。</p>

最終更新日付	令和 4 年 2 月 15 日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------------	-------	-------

7-25 学生募集活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	在校生が卒業した高等学校や中国語の授業を設置している高等学校などを中心に情報提供に取り組む。	ダイレクトメールの発送、無料公開講座などを行っている。また、大学、短大、学会向けにも働きかけを行った	高校側がより興味をもつような情報提供の仕方を考えていく必要がある。 大学へは中国語講師に直接働きかけ出来ないか考える。	なし
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	学生確保のため、学生募集活動は重要であり、積極的に行う。	学生募集活動は適切に行われているが、学生の確保については充分といえない。	活動時期や訪問先を再考する必要がある。	高校、大学訪問記録表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
高校、大学訪問などの宣伝活動の他、ホームページ、インターネット、紙媒体を使った広告、DMやSNSでの情報発信を行っている。	学院の入学案内には募集要項の他に、カリキュラム、活動、学生の声と情報量が多く内容は豊富で、毎年更新している。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	入学選考基準を明確化し、適切に運用する。	入学選考基準は明確化されており、適切に運用されている。	特に問題を感じていない。	入学案内
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用する。	入試実績を把握し、その情報は講師会で報告し、各講師が把握している。	特に問題を感じていない。	入学者データ 入試記録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入試日程は決まっており、筆記試験と面接で可否を決定。入学試験は適正に行われている。	日本語科外国人留学生の場合、現地或いはネットを通して面接試験をしている。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	経費内容、教育内容に対応し、学納金は妥当なものでなくてはならない。	学納金は妥当なものと思う。	日本語科学納金は状況の変化による定期的な見直しが必要である。	入学案内書
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	入学辞退者に対し、授業料等について、適正に取扱う。	入学前 3/31 までの入学辞退者に関しては、学費を返還している。留学生に関しては、正当な理由があれば入学金も返還している。	特に問題を感じていない。	入学案内書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>中国語本科の学納金は、他校とだいたい同水準。学生にとって大きな負担になる金額ではない。また、ここ十数年学納金の引き上げは行っていない。</p> <p>入学前と1学期終了時の2度に分けて納付する。</p> <p>今年度より、学費減免制度を設け、条件に当てはまる家計の学生には、申請により学費を減免している。</p>	<p>日本語科は、外国人留学生ということがあるので、本科生より20%ほど低く設定してある。</p>

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>年度予算は、その年度の学生数を予測して適切に立てられている。しかし、日中間の政治的、社会的情勢によって学生数の増減が大きく、単年度予算が赤字になることも多く、ここ数年は赤字決算が続いている。このため、運営方針や経営改革が必要である。経費削減の他、学生数増加の方策も考えなければならない。</p> <p>会計監査は毎年適切に行われている。年間予算、決算は教職員と学生の双方に公開されている。</p>	<p>全体講師会で財務状況を発表している。それと同時に、小冊子にまとめ学生にも外部の関係者にも公表している。</p> <p>公益財団法人による監査を受けている。</p>

最終更新日付	令和 4 年 2 月 15 日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	安定的な学校運営のため、財政基盤を安定させる。	ここ数年赤字が続いている。今年度は広告費を削減した。	ここ数年赤字決算が続いているのでその解消が課題。学生募集の対策と経費削減を考える。	会計報告書
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	安定的な学校運営のため、財政分析を行う。	主要な財務数値に関する情報は把握している。	中長期的な展望が必要である。	会計報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務基盤は比較的安定している。しかし、数年赤字決算が続いているので、その解消が重要課題である。	本学院は、公益財団法人日中友好会館の一部門であることが特色。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	予算を適切に策定する。	年度予算は、適切に策定され 妥当なものとなっている。 中期計画書はない。	中期計画の策定が課題である。	会計報告書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行う。	予算は計画に従って妥当に 執行されている。 運営会議において執行状況を 管理している。	特に問題を感じていない。	会計報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
収入に応じた予算を毎年編成している。適切に計画運用されている。 中期計画の策定が課題である。	予算は年度途中で確認している。半期ごとの講師会でも公表している。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	適切に監査を実施する。	会計監査は適正におこなわれている。	特に問題を感じていない。	なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
会計監査は外部の監査会社により、定期的に適切に行われている。	学校単独の会計監査だけではなく、公益財団法人日中友好会館の一部門として会館の監査も受けている。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	財務公開体制を整備し、財務状況を公開する。	毎年全体会議で報告し、毎年小冊子にもまとめ、全教職員、受講生に公開している。	特に問題を感じていない。	会計報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年に1回全教職員、全学生に対して公開している。	教職員、学生だけでなく、卒業生の組織「日中学院校友会」の会員に対しても郵送し、公表している。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校教育法等の法令、東京都、文京区からの条例等は全教職員に周知させ、遵守するよう徹底している。また運営規則を定めている。</p> <p>個人情報に関しては、学校という性質上、預かっている学生の個人情報も多いので、個人情報保護規定を作成し、厳格に管理している。</p> <p>自己点検・自己評価を実施し、報告書を公表している。</p>	特になし

最終更新日付	令和 4 年 2 月 15 日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------------	-------	-------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行う。	法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされている。運営規則を定め、これに則った運営を行っている。	学則などは定期的な点検が必要である。	日中学院運営規則 日中学院学則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
路上喫煙、自転車、個人情報に関しては、特に注意して遵守するよう学生に指導している。外国人留学生に対しては法令だけでなく、生活習慣的なことまで指導している。	外国人留学生については、日本語だけでなく、中国人講師から中国語で丁寧に説明するようにしている。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	個人情報は厳密に管理する。	「日中学院個人情報保護規定」を定め、個人情報保護の対策をとっている。講師会で個人情報保護について注意を呼び掛けている	教職員個人が守っているかどうかについてはチェックが難しい。	日中学院個人情報保護規定

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報に関しては、責任の所在が分からなくなるので、事務局で一括管理するようにしている。	外国人留学生に関しては、本人だけでなく、本国の両親、在日の連絡人など関連する個人情報が多いので特に注意している。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	自己点検・自己評価を実施する。	自己点検・自己評価は年1回実施している。	特になし	自己点検自己評価報告書
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	自己評価結果を公表する。	報告書はファイルし、ラウンジに閲覧用として置いている。また、ホームページにも公開している。	自己評価報告書への関心を高める必要がある。	自己点検自己評価報告書
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	学校関係者評価は行っていないが、準備、体制作りを検討する。	学校関係者評価は行っていないが、準備、体制作りを検討する。	評価委員の選定、評価項目などの精査が必要。	なし
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	現在、学校関係者評価は行っていない。	現在、学校関係者評価は行っていない。	特になし	なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己点検・自己評価は2007年度から実施している。公開に関しては、印刷した冊子の形式で学院内のラウンジに置き、誰でも閲覧できるようにしている。またホームページにも公開している。	なし

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	教育情報の公開は積極的に行うべきである。	ホームページ、案内書で教育情報を公開している。この他、開校以来毎年6月に学生数、授業料、財政状況の推移など基本的な教育情報を印刷して全教職員、受講生に公開している。	特に問題を感じていない。	ホームページ 入学案内書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育情報は、ホームページ、案内書、広告媒体等で公開している。	附帯教育の別科では、早朝、午前、午後、夜間、土曜のみと入門から通訳レベルまで70を超える講座を開講している。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校には、中国語本科と日本語科の他に、一般社会人が中国語を学習する別科がある。社会教育や生涯教育に関しては、主として別科では長年の取り組みにより大きな成果を上げている。しかし、地域や企業との連携はなく、それが今後の課題である。</p> <p>国際交流の面では、中国との関係は長く続いている。これから日中共同で研究の機会を作れる可能性があるので追究していきたい。現在は毎年本科生の中国での短期研修を行っている。また天津外国語大学と提携し、本科編入制度を設けた。これ以外にも相互交流を検討している。</p> <p>中国から日本を訪れる代表团との交流や、中国人留学生と在校生の様々な交流が機会あるごとに行われている。</p>	<p>中国とのかかわりが深いので、中国との交流は盛んに行われている。社会貢献の面でも、中国国内で起きた大きな地震・洪水等の災害に対しての支援活動は昔から行ってきた。こうした活動は中国の国民を援助するだけでなく、中国に対する日本人の理解を深めることにもつながる。</p>

最終更新日付	令和 4 年 2 月 15 日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	社会貢献・地域貢献を行うよう検討する。	社会人向けの附帯教育別科では多くの講座を開講し、生涯教育の側面を持っている。	地域への貢献が今後の課題である。	別科案内書
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	国際交流は機会があれば積極的に行いたい。	本科では中国人民大学と提携し、毎年短期研修を実施している。また天津外国語大学とは、本科編入制度を締結した。留学生と中国語科の学生の交流は頻繁に行っている。	交流の機会、提携する相手を更に増やしていくこと。	本科入学案内 日本語科入学案内

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
附帯教育の別科では、早朝、午前、午後、夜間と入門から通訳レベルまで70以上の一般向け講座を開講し、生涯教育や雇用促進への支援にも繋げている。	本科2年次では中国人民大学への短期研修が必修になっている。(今年度は未実施)また、天津外国語大学本科への3年次編入も可能になった。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	特に当てはまらない。	現状、ボランティア活動や支援活動は行っていない。	なし	なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生が行っているボランティア活動に関しては、現在、調査や確認をしていない。	特になし

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	小松 健次
--------	-----------	-------	-------